

第 12 回 IR 推進会議を傍聴する

昨日 3 月 1 日午前、大阪市役所で第 12 回 IR 推進会議を傍聴した。この会議は初めてだ。たまたまプレス資料から会議開催案内を知り、予定を変更して傍聴することにした。コロナ禍で誘致計画が大幅に修正され、

2. 議 事	
(1)	国の動向について
(2)	IR 誘致の状況について
(3)	大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域整備 実施方針（修正案）について
(4)	その他

夢洲開発や万博と関わりなど、推進会議

でどのように議論されるかに注目した。
2 月 14 日にレポートしたように、大阪府・市は 2 月 12 日に IR 実施方針案の修正を発表した。部分開業を 2020 年代後半として、府・市がめざす「世界最高水準」の施設完成の時期を示さなかった。時期は事業者の提案によるとして、段階的整備を認めた。参加資格審査の追加受付をすることになり、7 月頃を提案書類の提出期限とした。こうした大幅な方針案修正により、誘致を優先するあまり、カジノ事業者の言いなりになるのではないかと、レポート最後で指摘した。

推進会議はまず事務局から、資料にもとづいて国の動向や IR 誘致の状況、実施方針（修正案）などについて説明があり、委員全員からコメントがあった。驚いたことに、事務局説明や委員コメントに、「カジノ」という言葉がまったく出てこなかった。IR は

通常「カジノを含む統合型リゾート」と言われるが、正確には「カジノを中核ないし中心にした」と言うべきものだ。カジノ実施法の施行規則に、MICE 施設（国際会議場、展示場、ホテルなど）の建設が明記されている。カジノは MICE 施設を集客装置としており、密接不可分なのだ。IR とは、「何でアール」と言いたくなる。

委員からは、コロナ禍で開業時期の延期や段階的整備はやむをえない、リアルとバーチャルを組み合わせた MICE といった意見が多かった。海外のカジノ業者の動向、追加公募、費用負担については意見が出なかった。写真にある修正後スケジュールについて、活発な質疑が交わされると思っていたが、期待はずれだった。

経済界の委員からの次のようなコメントに注目した。IR 開業が遅れてしまい、万博との間に時間があくのは残念で、なにか対策を考えなくては。万博期間中の IR 工事は調整が必要。万博ファーストだ。IR 施設の遅れと規模縮小の大阪経済への影響は。IR と夢洲のまちづくりとの関係など。

● IR 施設の開業については、2020年代後半を想定しているが、世界最高水準の IR 及び早期開業による速やかな事業効果の発現が実現できるよう、公民連携して取り組む。

当初スケジュール		修正後スケジュール		内 容
—	—	—	3月頃	実施方針確定・募集要項等修正 参加資格審査の追加受付
令和2年 (2020年)	4月頃	令和3年 (2021年)	7月頃	提案書類の提出期限
	6月頃		9月頃	事業予定者の選定
	7月～10月頃		10月～1月頃	区域整備計画の作成及び公聴会等の 実施
—	11月～12月頃	—	2月～3月頃	府議会・市会の同意
令和3年 (2021年)	1月～	令和4年 (2022年)	4月頃	区域整備計画の認定の申請
	秋頃		夏頃～	区域整備計画の認定（国）※1 実施協定の締結
—	—	令和5年度 (2023年度)以降	—	設置運営事業の開始 土地引渡し・工事着工 ※2
—	—	2020年代後半	—	開業 ※2

※1 国のスケジュールは想定
※2 時期は事業者の提案による

(2021年3月2日)